

2014年度の事業

1. 運営方針

2013年度、カナンの園では創立40周年記念事業のまとめとして40周年記念誌を発刊しました。これまでの歴史を振り返り、関わる者が大きな感謝に包まれつつ新たな歩みを始める決意を持つことが出来ました。先達の創立の理念に込めた想いを受けとめ、時代の変化やそれに呼応する様々な環境の変化に対応していく組織と人材を整えていくことが求められています。理事会の責任の下、チャプレンの働きの充実、現場管理者の連帯、重層的多面的な研修プログラムの構築、職員の福利厚生と健康管理などを運営の重点項目とし、現場に立つ一人ひとりが確かな理念と実践力を手に、喜びと感謝の気持ちをもって利用者の方々と日々歩める組織になりたいと願っています。

カナンの園は運営する組織が多岐に亘り、両法人を合わせると200名を超える職員によって構成される組織となりました。事業所間の物理的な距離に併せ、事業による職種や職責、労働時間帯の異なる職員集団が互いを連帯の意識を持って認め、支え合う関係性を築いていくと共に、保護者会や支援者、関係各所との連携を重視した取り組みが重要となります。法人の歴史においても、法制度においても変革期が続く中で1年となりますが、心をひとつにして歩みを進めていきます。

2. 運営の重点

- ① 組織運営の強化を図るために次の方策を取る
 - ① 法人本部機能を強化し組織運営の見直しを行い、次年度に計画している部署制への移行準備を進める
 - ② 理事会と現場とが課題を共有し、対応できる運営を行う
 - ③ チャプレンの働きを充実させる
 - ④ 人材の確保と育成を行い、実務技術力の向上を図る
 - ⑤ 健康管理体制と安全管理、防災体制の充実を図る
- ② カナンの園第6次将来計画（構想）を基本として、総合的な観点から事業計画スケジュールを策定する
 - ① 旧入所更生施設の建物と土地の利用方法について具体的な立案を行う
 - ② 中山地区、盛岡地区での利用者ニーズ、各事業所の役割を整理し、法人全体の課題として捉えて、事業展開の方向を短中期的に具体的なたたき台を検討する
 - ③ 法人全体の製品販売を総合的に取り扱う部署（カナン市場）のさらなる充実を図り、販路拡大や顧客ニーズに応じていく体制を再吟味する
 - ④ 相談支援事業の安定と充実を図る
 - ⑤ 障がい福祉を基盤とするカナンの園が、地域の関係諸機関と連携し、新たな地域社会を構築していくことをめざす

社会福祉法人カナンの園役員（担当）

理事長
及川忠人（人事、医療、将来像検討）

理事長代理
中条和哉（人事、礼拝、医療、将来像検討、となんカナン・三愛学舎担当）

本間邦彦（安全管理、シャローム・ウィズ・支援センター担当）

理事
佐藤真名（事務局長、人事、将来像検討）
澤谷常清（三愛学舎校長、人事、礼拝、教育研修、広報、将来像検討）
佐藤研司（小さき群の里・ののさわ施設長、人事、安全管理、将来像検討、法人本部・カナン牧場・支援セン

社会福祉法人カナンの園施設管理者

●法人本部
事務局長 佐藤真名
事務長 伊藤繁夫

●奥中山学園
園長 藤村正治
副園長 岡崎俊彦

●小さき群の里
施設長 佐藤研司
副施設長 中嶋隆

●ののさわ
施設長 佐藤研司
副施設長 服部勉

●ヒソプ工房
施設長 阿部孝司
副施設長 鈴木直人

ター担当）
佐藤孝悦（安全管理、教育研修、ヒソプ工房・シャローム・ウィズ担当）
坂水かよ（組織、奥中山学園・ヒソプ工房・となんカナン担当）
真山重博（広報、ののさわ・小さき群の里・カナン牧場担当）
原田千恵（組織、奥中山学園・小さき群の里・ののさわ担当）

監事
花松行雄
菅野督巳
秋山信愛
チャプレン
中条和哉

学校法人カナン学園役員

●カナン牧場
施設長 山崎敏夫
副施設長 浅沼俊一

●シャローム
施設長 薄正仁
副施設長 向井由祈

●ウィズ
施設長 薄正仁
副施設長 南館晋也

●生活支援センター
センター長 山館憲行
副センター長 戸田清志

●となんカナン
施設長 高橋正彦
副施設長 猪又平

●三愛学舎
学校長 澤谷常清
副校長 伊藤和彦

チャプレン 中条和哉

理事長 猪苗代正憲
理事 本間邦彦 及川忠人 齊藤芳弘
監事 角谷晋次 澤谷常清 栗田良実 花松行雄

社会福祉法人カナンの園 2013年度 決算報告 (単位：円)

1. 社会福祉事業会計

本部会計、奥中山学園、放課後等デイサービスゆいまある、小さき群の里、ケアホームののさわ、HANA、美空、居宅介護事業れもん事業所等の各経理区分を合算したものです。

貸借対照表			
2014年3月31日現在			
資産の部		負債の部	
流動資産(注：①)	289,254,826	流動負債	34,021,209
固定資産(注：②)	854,531,303	固定負債	39,824,350
		負債の部合計	73,845,559
		純資産の部	
		基本金	398,317,416
		国庫補助金等特別積立金	212,000,078
		その他の積立金	187,379,538
		次期繰越活動収支差額	272,243,538
		(内、当期活動収支差額)	59,430,564
		純資産の部合計	1,069,940,570
資産の部合計	1,143,786,129	負債・純資産合計	1,143,786,129

事業活動収支計算書	
(2013年4月1日～2014年3月31日)	
事業活動収支の部	
収入(注：③)	652,406,253
支出	580,883,110
収支差額	71,523,143
事業活動外収支の部	
収入	51,259,065
支出	64,127,416
収支差額	-12,868,351
特別収支の部	
収入	22,388,805
支出	21,553,658
収支差額	835,147
当期活動収支差額	59,489,939
前期繰越活動収支差額	213,643,599
当期末繰越活動収支差額	273,133,538
基本金・その他の積立金取崩額	45,000,000
基本金・その他の積立金積立額	45,890,000
次期繰越活動収支差額	272,243,538

注：
①流動資産額の内訳の内、現金預金は178,063千円、未収入金は自立支援給付2・3月分 104,131千円及び利用料等になります。
②固定資産額の内訳の内、基本財産は、土地72,453千円、建物477,267千円。その他の固定資産として退職共済預け金23,574千円、積立金178,740千円等です。
③事業活動収入の内、寄付金収入は12,407千円（前年比+584千円）内訳（ア）施設利用者指定寄付1,385千円、（イ）法人活動の為の寄付金7,114千円（ウ）施設指定寄付金は722千円、（エ）物品による指定寄付金3,186千円です。

2. 就労支援事業会計

ヒソプ工房、シャローム、ウィズ、カナン牧場、となんカナンの各経理区分を合算したものです。

貸借対照表			
2014年3月31日現在			
資産の部		負債の部	
流動資産(注：①)	255,187,884	流動負債	16,662,979
固定資産(注：②)	527,355,715	固定負債	38,479,225
		負債の部合計	55,142,204
		純資産の部	
		基本金	113,658,408
		国庫補助金等特別積立金	240,353,028
		その他の積立金	49,300,000
		次期繰越活動収支差額	324,089,959
		(内、当期活動収支差額)	18,627,388
		純資産の部合計	727,401,395
資産の部合計	782,543,599	負債・純資産合計	782,543,599

事業活動収支計算書	
(2013年4月1日～2014年3月31日)	
就労支援事業活動収支の部 (注：③)	
収入	185,123,678
支出	184,894,883
収支差額	228,795
福祉事業活動収支の部	
収入	319,292,918
支出	313,279,943
収支差額	6,012,975
事業活動外収支の部 (注：④)	
収入	17,484,442
支出	5,128,821
収支差額	12,355,621
特別収支の部	
収入	2,489,999
支出	2,460,002
収支差額	29,997
当期活動収支差額	18,627,388
前期繰越活動収支差額	309,362,571
当期末繰越活動収支差額	327,989,959
その他積立金取崩額	3,900,000
次期繰越活動収支差額	324,089,959

注：
①流動資産額の内訳の内、現金預金は179,578千円、未収入金は自立支援給付2・3月分及び利用料53,091千円、売掛金11,823千円、他は原材料等です。
②固定資産額の内訳の内、基本財産（建物）は376,668千円、退職共済預け金 140,29千円、積立金49,300千円等です。
③就労支援事業収支差額では、ヒソプ工房-178千円、シャローム763千円、ウィズ667千円、カナン牧場770千円、となんカナン-1,794千円です。
④事業活動外収支の内、支出は、福祉・医療機構借入金（シャローム、カナン牧場、となんカナン）の利息返済及び他経理区分への繰入金支出です。